

あ い さ つ

金沢大学教育学部附属養護学校

校長 大塚 明 敏

養護学校教育の義務制実施とともに養護学校の充実整備が行われてきました。施行後12年を経た現在では教育の質の充実が求められています。これは取りも直さず子供たちが毎日通ってくる学校生活そのものの質を向上させ、心豊かな生活経験を積ませることに外なりません。日常の教育実践や研究方法はいかにあるべきか、改めて問われている時期にきていると思います。

本校では「発達と障害に応じた指導」というテーマで研究を進め3年目という一つの節目を迎えました。本年度も昨年度に引き続き6つの課題別グループを設け実践的研究をより深めて参りました。この3年間私たちが実践した研究方法は学校全体で取り組む統一テーマ方式というよりはむしろ全校の教師集団を縦割りにした研究プロジェクト方式といった方がよいかと思います。この二つの方式はそれぞれにメリット、デメリットがありますが、プロジェクト方式はどちらかと言えば小回りのきく研究体制をとることができ、研究活動が日常的自主的に行われるという点ではメリットがあったようです。

過去3年間を振り返ってみますと教育環境がソフト面ですぐ分変わってきました。それは教師一人一人が子供たちに適した学校生活の内容と質の向上という現代的課題に対して問題意識をもって研究を進めてきたからだと思います。学校生活の変容をいくつかあげてみますと、毎週水曜日の昼食時に「絵本の日」という時間ができましたし、「親子トランポリン教室」が週1回放課後行われるようになりました。また子供の性の問題やコミュニケーションについて親と教師が共に学習会を開いたり、時代に対応したパソコン教材の開発、子供たちの感性をゆり動かす授業実践など数多くの研究成果がみられました。

プロジェクト研究方式により6つの課題別グループはそれぞれに研究が深まりました。しかしこれからは今までの研究を土台にして小学部、中学部、高等部の各発達段階に応じた子供たちにより多く還元されなければなりません。そのためにはグループ研究の内容を全教師がお互いに理解し合い、ひびきあい、高めあう必要があるのではないかと考えています。その意味ではこの3年間は学校生活の質を高めるための基礎研究であったと言えます。なお本校の教育研究協議会にPTAが独自に分科会をもつようになって今年で4年目を迎えます。今まで「通学のこと」「食生活のこと」「卒業後の進路」について考えてきました。そして本年度は「余暇について」というテーマで提案と話し合いをもつことになっております。参会の先生方、保護者の方々の忌憚のないご意見やご指導をよろしくお願いいたします。